

編集 後記

日本公衆衛生雑誌第53巻第10号をお届けいたします。総説では、魚・n-3系多価不飽和脂肪酸の大腸がん予防に関する実験的研究と疫学研究の結果を比較している。疫学研究はヒトを対象としているので、当然、実験動物に比べてバラツキが大きく、得られる結果にはかなりの不確実性をともなう。したがって、疫学研究の結果は、「同じ研究目的・仮説なのに、相反する結果が数多く公表される」と批判され、疫学研究に対して懐疑的な意見を耳にすることがある。つまり、疫学研究は、実験室での研究とちがって、すぐにやり直しもできないし、バラツキを完全に制御することもできない(いい加減な結果に思える)、多くの疾病の治療・予防に貢献してきたが、その生理学的・生物学的メカニズムは未知のことが多い(Black Boxアプローチには多くの人は抵抗感がある)、というわけである。この批判に対しては、「事前に決めた仮説を検証するためのより大規模な研究をなるべく研究の数は少なくして行なう」、「事前に研究の計画・解析方法などを文書化したプロトコルを作り、それを厳密に守る」、「生物学的なメカニズムにも関心をもち、できる限り疫学研究の成果と融合させる」、「ことなる研究結果(要約されたデータではなく、個人データ)の統合」、「Positiveな結果は十分注意をはらって公表すべき」といった原則を守ることが重要である。これらの原則はどんな講義・教科書でもいわれていることかもしれないが、知っている本人すら忘れていたことがあるのを改めて感じた次第である。(松山 裕)

11号予告(第53巻・第11号)

総 説

小児保健とQOL研究

現状と今後の課題……………松田智大, 他
保健医療サービスに対する仮想評価法(Contingent Valuation Method)

本邦研究のレビューと海外研究の概要

……………康永秀生, 他

原 著

母親の育児不安と双生児の精神運動発達との関連性の検討

双生児と単胎出生児との比較から

……………西原玲子, 他

健康意識・健康行動をもたらす潜在因子

……………古谷野 亘, 他

公衆衛生活動報告

虚弱高齢者における包括的筋力トレーニングが

QOLに及ぼす影響……………千葉敦子, 他